

特別会計

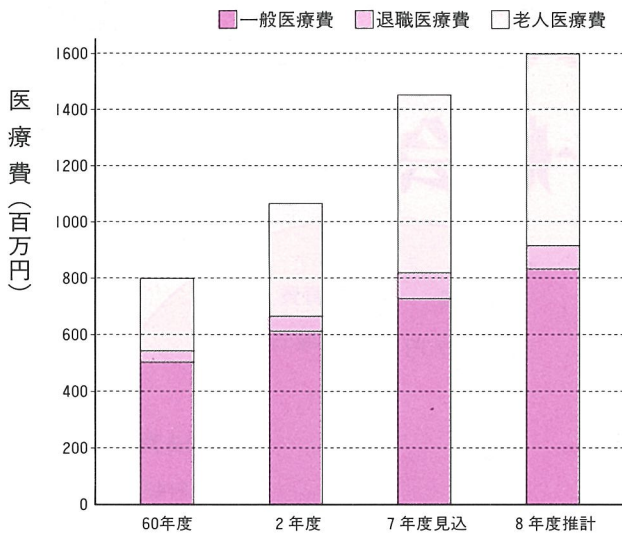
国民健康保険

健康づくりに励もう！

国保事業を取り巻く環境は、人口の急速な高齢化に伴い、国民健康保険への加入状況もこれに比例して高齢者や低所得者の占める割合が増加しています。

特に近年は、医療技術の高度化や疾病構造の複雑化、受診率の上昇等により、被保険者数は減少しているにもかかわらず、医療費は断続的に伸び続けている状況であり、ここ2カ年の医療

国民健康保険医療費の推移 (総医療費)



単位：百万円

	60年度	2年度	7年度見込	8年度推計
■一般医療費	511	612	748	827
■退職医療費	40	65	75	83
□老人医療費	255	389	626	703
合計	806	1,066	1,449	1,613

動向は、一般被保険者分の医療費を中心として10%台の急激な伸びを示しており、平成8年度の医療費総額は、16億円を超えるものと推計されます。

このような状況から平成8年度の事業運営にあたっては、国民健康保険の使命である被保険者の健康の保持増進を図ることを第一とし、在宅訪問指導の強化充

実、国保総合健康づくり推進事業の新規導入並びに国保税の収納率向上対策の強化等を積極的に実施し、収支両面から国民健康保険事業の適正、かつ、健全な運

営に努めます。

一方、財政状況については、平成7年度の国保特別会計の決算見込みが、医療費の急激な伸びを要因として、5千万円の減税分に加え医療支払分で2千万円強の追加が見込まれ、単年度収支は7千万円強の赤字となる見込みです。

また、平成8年度においても国保財政の好転は期待できず、歳入では農業所得等の落ち込みによる国保税の減収、歳出では一般被保険者分療養給付費及び高額療養費の増高並びに老人保健拠出金の急増等を背景と

して8年度の単年度収支は、1億3千万円程度の赤字となる見込みであり、この財源手当てとしては財政調整基金の取崩しによる1億2千万円及び前年度繰越金をもって充当する予定です。

このようなことから平成7年度、8年度の2か年で2億円程度の赤字財政となる見込みであります。

したがって、平成9年度以降の国保税率決定については、8年度の決算状況、当該年の医療動向及び所得水準等を考慮のうえ長期的な見通しのうえにたつて検討していきたいと考えています。

老人保健

老人保健制度は、70歳以上の老人と65歳以上の障害者が老後安心して医療の給付を受けられる制度ですが、当町の老人医療受給者は、8年3月1日現在で1699人を数え、人口の13.7%を占め、年々増加の一途をたどっています。

特に近年は、疾病構造の複雑化、医療技術の進歩等により老人医療受給者は、高度でより質の高い医療の供給を求めているのが現状

であり、医療費は年々増加してきます。更に、今後は老人人口の増加と比例し、寝たきり老人や介護を必要とする老人が増加し、在宅医療に要する医療費の増高が予測されることでもあります。

このような状況下で平成8年度の医療費は、9億900万円余を見込みました。

なお、この財源負担率は、支払基金70%、残り30%は公費分として国20%、県・町が各5%と定められています。

食肉センター

長期にわたり安定した経営を目指す！

食肉センターの経営でも重要な豚と畜頭数の状況は、長い間続いた前年割れによりやく歯止めがかかったものと思われませんが、長引く豚価の低迷をはじめ、ふん尿処理問題、後継者不足等により、飼育戸数、頭数ともに減少を続けており、年々きびしさを増しています。食肉センターは、地域の産業振興並びに雇用の場確保面から大変重要な施設でありますので、長期にわたり安定した経営を行い、

安心して利用していただける施設の提供をしたいと考えています。

このため、平成8年度においては、経費の削減合理化並びに品質向上につながる施設改修事業として、浄化槽施設の全面改修と冷凍機の改修を計画しており、更に将来の施設改修に備えて財政調整基金積立金1500万円を確保しました。

特別会計予算の前年度対比

単位：万円

会計	8年度	7年度	比較
国民健康保険	101,300	87,000	14,300
老人保健	92,400	85,800	6,600
食肉センター	78,630	20,840	57,790
合計	272,330	193,640	78,690